



第21回漢方學術大会

発表要旨集

平成13年11月18日(日)

東京都・新宿区新宿

東京医科大学病院・同窓会館4F

主 催

日本漢方協会

傷寒論における疼痛（1）頭痛

日本漢方協会 傷寒論分科会

今井 淳 岡田 澄江 河田 貞子 佐藤喜和子 庄子 昇
○橋本 信孝 橋本千鶴子 福田 順子 間瀬 信行 宮入 浩子
渡辺 賢治 加世田弘道 穴原 暁子

頭痛、腹痛、腰痛など病気の主訴の多くは痛みから始まる。傷寒論においても疼痛の表現が随所に見られる。そこで疼痛、疼、痛に関する記載を各条から抽出整理し、それぞれの疼痛にかかわる方剤とその方剤成分生薬を整理した。さらに「頭痛」について詳細に調べた。

使用した「傷寒論」は分科会において日頃使用している「傷寒論金匱要略」方術信和会編集を用いた。

1. 疼痛の語源

諸橋「大漢和辞典」（大修館書店）によれば、

「疼」は、①いたむ、うずく ②愛する

「痛」は、①いたむ、病む、なやむ、なげく、②いたます ③いたみ ④いたく

「疼痛」は、いたむ、いたみ

と記されている。

2. 条文に見られる「疼痛」

表1に傷寒論の各条文にみられる「疼」「痛」「疼痛」を抽出して反転文字で示した。各条に示された方剤も欄外に抽出した。

「疼」「痛」「疼痛」は全文中122箇所に記載され、太陽病中が27箇所と最も多く、ついで太陽病22、少陰病15、平脈法11箇所の順であった。

それぞれの方剤は51箇所36種類が記載されている。

表2に、疼痛を「疼」「痛」「疼痛」に分け、それぞれの種類を示した。その方剤も併せて示した。「疼痛」は、「一身盡疼痛」など7種が有り、最も多いのが「身疼痛」で7条文に記されている。方剤も麻黄湯など7処方が示されている。

「疼」は「身疼」など11種、方剤は桂枝附子湯など5処方が示されている。

「痛」は「身痛」など42種類があり、最も多いのが、「頭痛」で15条文に記されており、ついで「腹中痛」8条文、「咽痛」7条文「痛」6条文などである。方剤は30種あり、これは全方剤中（36種）83%に及ぶ。

疼痛に用いられる方剤は36種であり、その疼痛の記載条文、疼痛の種類、方剤成分生薬を示した。また、疼痛の方剤中に含まれる生薬は33種あり、方剤成分生薬の特徴、薬能について、「新古方薬叢」による朴曰くをまとめた。

3. 「頭痛」について

傷寒論の太陽病の冒頭に記載される「疼痛」は「頭痛」であり、また「頭痛」は「疼痛」のうち最も記載頻度が多い。

表3に、病期の太陽病上・中・下・陽明病・少陽病・厥陰病に至る「頭痛」とその方剤をまとめた。頭痛に関して、太陽病・上では4条文、2方剤、中では3条文、4方剤、少陽病では1条文1方剤、厥陰病では1条文1方剤が示されている。太陽病・下及び陽明病では条文のみで方剤はなく、また、太陰病及び少陰病には条文及び方剤のいずれの記載もない。

同じ「頭痛」であってもその原因、現れ方によって用いる方剤も異なる。即ち、太陽病の頭痛は桂枝湯であり、厥陰病のそれは呉茱萸湯である。これらの違いを考察した。

表1. 条文に見られる「疼痛」とその方剂

条	条文抜粋	方剂
弁脈法	<p>24 立夏得洪大脈是其人身體強壯者須發其汗若明日身不重者不須發汗若汗澀澀自出物者明日便解矣</p> <p>28 寸口脈浮而緊浮則為風緊則為寒風則傷衛寒則傷榮榮衛俱病當發其汗也</p> <p>43 表氣微虛裏氣不守故使邪中於陰也陽中於邪必發熱頭痛項強頭暈目眩酸所為陽中霧露之氣……下焦不閉清便下重令便數難命將難全</p> <p>44 脈陰陽俱緊者口中氣出唇口乾燥……設使惡寒者必欲嘔也者必欲利也</p>	
平脈法	<p>1 問曰脈有三部……陰陽相干風則浮虛寒則牢堅沈潜水畜支飲急弦動則為病數則熱煩</p> <p>4 病家謂云病人若發熱病人自臥</p> <p>5 假令病人云腹內痛病人自坐師到脈之浮而大者其差也</p> <p>8 師持脈病人欠者無病也脈之呻者病也言遲者風也搖頭言者……坐而下一脚者……也裏實護腹如懷卵物者……也</p> <p>9 若脈微弱者當……似傷非喉痺也病人云實……雖今復欲下利脈得太陽與形病人乃大吐若下利……</p> <p>17 跌陽脈滑而緊滑者胃實緊者脾氣強持實擊強……還自傷以手把刃坐作瘡也</p> <p>29 跌陽脈緊而浮浮為氣緊為寒腹滿緊為……浮緊相搏腸鳴而轉轉即氣動膈氣乃下</p> <p>36 跌陽脈緊而浮浮為氣緊為寒腹滿緊為……浮緊相搏腸鳴而轉轉即氣動膈氣乃下</p>	
傷寒例	<p>15 當一二日發以其脈上連風府故……腰脊強尺寸俱長者陽明受病也……其脈俠鼻絡於目故身熱……不得臥尺寸俱弦者少陽受病也……其脈循脇絡於耳故……而耳聾此三經皆受病</p> <p>17 口乾煩渴而渴</p> <p>18 七日太陽病衰……少癒</p>	
痙濕謁病	<p>7 太陽病……而煩脈沈而細者</p> <p>8 濕家之為病……身熱</p> <p>11 風濕相搏……身重疼痛</p> <p>12 濕家病……身重疼痛</p> <p>13 身重疼痛</p> <p>15 太陽中謁者身熱……而脈微弱</p> <p>16 太陽中謁者發熱惡寒身重而……其脈弦細孔遲</p>	
太陽病上	<p>1 脈浮……而惡寒</p> <p>3 已發熱或未發熱必惡寒……嘔逆脈陰陽俱緊者</p> <p>9 太陽病……至七日已上自癒</p> <p>14 太陽病……發熱汗出惡風者桂枝湯</p> <p>15 太陽病項背強几几反汗出惡風者桂枝加葛根湯</p> <p>29 服桂枝湯或下之仍……發熱無汗心下滿微痛小便不利者桂枝湯去桂加茯苓白朮湯</p>	<p>桂枝湯</p> <p>桂枝加葛根湯</p> <p>桂枝去桂加茯苓白朮湯</p>
	<p>5 太陽病……發熱……惡風無汗而喘者麻黃湯</p>	麻黃湯

太陽	<p>8 太陽中風脈浮緊發熱惡寒……不汗出而煩燥者大青龍湯</p> <p>9 傷寒脈浮緩……但重乍有輕時無少陰證者大青龍湯</p> <p>16 太陽病脈浮緊無汗發熱……八九日不解表證仍有……麻黃湯</p> <p>18 二陽併病太陽初得病……陽氣沸鬱不得越當汗不汗其人煩燥……</p>	<p>大青龍湯</p> <p>大青龍湯</p> <p>麻黃湯</p>
陽	<p>20 脈浮緊者當……</p> <p>26 傷寒不大便六七日……有熱者與承氣湯其小便清者知不在裏仍在表也當須發汗若……者必齕宜桂枝湯</p> <p>32 發汗後……脈沈遲者桂枝加芍藥生姜各一兩人參三兩新加湯</p>	<p>承氣湯</p> <p>桂枝湯</p> <p>桂枝新加湯</p>
病	<p>51 傷寒五六日大下之後身熱不去……者未欲解也梔子鼓湯</p> <p>58 蒼家雖……不可發汗發汗則瘕</p> <p>61 汗家重發汗必恍惚心亂小便已……與禹餘糧丸</p>	<p>梔子鼓湯</p> <p>禹餘糧丸</p>
中	<p>64 傷寒醫下之續得下利清穀不止……者急當救裏後……清便自調者急當救表救裏宜四逆湯救表宜桂枝湯</p> <p>65 病發熱……脈反沈若不差……當救其裏宜四逆湯</p> <p>69 傷寒五六日中風往來寒熱胸脇苦滿默默不欲飲食心煩喜嘔或胸中煩而不嘔或渴或……或胸下痞硬或心下悸……小柴胡湯</p> <p>70 血弱氣盡湊理開……必下邪高……下故使嘔也小柴胡湯</p> <p>72 得病六七日脈遲浮弱……及身黃頸項強</p> <p>74 傷寒陽脈澀陰脈弦法當……者先與小建中湯</p> <p>85 太陽病二日……大便已……其人足心必熱穀氣下流故也</p> <p>100 太陽病過經十餘日心下溫欲吐而……大便反澀脣微滿微煩先此時自極吐下者與調胃承氣湯若不……者不可與欲嘔……微澀者非柴胡以嘔故知極吐下也</p>	<p>四逆湯、桂枝湯</p> <p>四逆湯</p> <p>小柴胡湯</p> <p>小柴胡湯</p> <p>小柴胡湯</p> <p>小建中湯</p> <p>調胃承氣湯</p>
太陽	<p>1 病有結胸有藏結其狀如何答曰按之……寸脈浮關脈沈名曰結胸也</p> <p>7 太陽病脈浮而動數浮則為風數則為熱動則為……數則為虛……發熱微盜汗出……動數變遲……胃中空虛客氣動膈短氣躁煩心中懊</p>	<p>大陷胸湯</p> <p>大陷胸湯</p>
陽	<p>8 傷寒六七日結胸熱實脈沈而緊……按之石硬者大陷胸湯</p> <p>10 太陽病重發汗而復下之之不大便……從心下至少腹硬滿而……不可近者大陷胸湯</p> <p>11 小結胸病正在心下按之則……脈浮滑者小陷胸湯</p>	<p>大陷胸湯</p> <p>大陷胸湯</p> <p>小陷胸湯</p>
病	<p>13 太陽病下之其脈促不結胸者此為欲解也脈浮者必結胸也脈緊者必……脈弦者必兩脇拘急脈細數者……未止</p> <p>14 病在陽……白散亦服……右件三味……假令汗出已……</p> <p>15 太陽與少陽併病……或眩暈時如結胸心下痞硬者</p>	<p>白散</p>
下	<p>19 傷寒六七日發熱微惡寒……微嘔心下支結外證未去者柴胡加桂枝湯</p> <p>22 傷寒五六日嘔而……若心下滿而……者此為結胸也大陷胸湯主之但……者此為痞柴胡不中與之宜半夏瀉心湯</p> <p>25 太陽中風下利嘔逆表解者乃可攻之其人螻蟻汗出發作有時……心下痞硬滿引……乾嘔短氣汗出不惡寒者此表解裏未和也十棗湯主之</p> <p>33 傷寒吐下後發汗虛煩脈甚微八九日心下痞硬……氣上衝咽喉眩暈頭脈動惕者久而成瘕</p> <p>39 病如桂枝證……項不強寸脈微浮胸中痞硬氣上衝咽喉不得息者</p> <p>40 病脇下素有痞連在……引少腹入陰筋者此名藏結死</p> <p>46 傷寒胸中有熱胃中有邪氣……欲嘔吐者黃連湯主之</p> <p>47 傷寒八九日風濕相搏……煩不能自轉側不嘔不渴脈浮虛而澀者桂枝附子湯主之</p>	<p>柴胡桂枝湯</p> <p>大陷胸湯</p> <p>半夏瀉心湯</p> <p>十棗湯</p> <p>黃連湯</p> <p>桂枝附子湯</p>

48	風濕相搏骨節煩疼掣痛不得屈伸近之則痛劇汗出短氣小便不利惡風不欲去衣或身微腫者甘草附子湯主之	甘草附子湯
15 20	陽明病欲食小便反不利大便自調其人骨節疼翕翕如有熱狀奄然發狂陽明病反無汗而小便利二三日嘔而咳手足厥者必苦腹脹若不咳不嘔手足不厥者頭不痛	小柴胡湯 麻黃湯
21	陽明病但頭眩不惡寒故能食而咳其人必咽痛若不咳者咽不痛	
53	陽明中風脈弦浮大而短氣腹都滿脇下及心痛久按之氣不通鼻乾・・病過十日脈統浮者與小柴胡湯脈但浮無餘證者與麻黃湯若不尿腹滿加噦者不治	
60	病人不大便五六日繞臍痛煩燥發作有時者此有燥屎故使不大便也	
62	大下後六七不大便煩不解腹滿痛者此有燥屎也所以以然者本有宿食故也宜大承氣湯	大承氣湯
76	發汗不解腹滿痛者急下之宜大承氣湯	大承氣湯
少陽病	3 傷寒脈弦細頭痛發熱者屬少陽不可發汗發汗則譫語此屬胃和則愈胃不和則煩而悸	小柴胡湯
太陰病	1 太陰之為病腹滿而吐食不下自利益甚時腹自痛若下之必胸下結硬 2 太陰中風四肢煩疼陽微陰澀而長者為欲愈 7 本太陽病醫反下之因而腹滿時痛者屬太陰也桂枝加芍藥湯主之 8 太實痛者桂枝加大黃湯主之	桂枝加芍藥湯 桂枝加大黃湯
少陰病	3 病人脈陰陽俱緊反汗出者亡陽也此屬少陰法當咽痛而復吐利 25 少陰病身體痛手足寒骨節痛脈沈者附子湯 30 少陰病下痢咽痛胸滿心煩者猪膚湯主之 31 少陰病二三日咽痛者可與甘草湯不差者與桔梗湯 33 少陰病咽中痛半夏散及湯主之 36 少陰病二三日不已至四五日腹痛小便不利四肢沉重疼痛自下利者此為有水氣其人或咳或小便利或下利或嘔者真武湯主之 37 少陰病下利清穀利裏寒・・・身反不惡寒其人面赤色或腹痛或乾嘔或咽痛或利止脈不出者通脈四逆湯主之 面色赤者加葱九莖腹中痛者去葱加芍藥二兩嘔者加生姜二兩咽痛者去芍藥加桔梗一兩 38 少陰病四逆其人或咳或悸或小便不利或腹中痛或泄利下重者四逆散主之・・・腹中痛者加附子一枚炮令拆	附子湯 猪膚湯 甘草湯、 桔梗湯 半夏散及湯 真武湯 通脈四逆湯 四逆散
厥陰病	1 厥陰之為病消渴氣上撞心中疼熱飢而不欲食食則吐衄下之利不止 9 傷寒先厥後發熱下利必自止而反汗出咽中痛者其喉為痺發熱無汗病者手足厥冷言我不結胸小腹滿按之痛者此冷結在膀胱關元也 15 傷寒4 5日腹中痛若轉氣下趣少腹者此欲自利也 33 下利腹脹滿身體疼痛者先溫其裏乃攻其表溫裏四逆湯攻表桂枝湯 48 乾嘔吐涎沫頭痛者吳茱萸湯主之 54	四逆湯、桂枝湯 吳茱萸湯
霍亂病	2 問曰病發熱頭痛身疼惡寒吐利者此屬何病答曰此名霍亂自吐下又利止復更發熱也 6 霍亂頭痛發熱身疼痛熱多欲飲水者五苓散主之寒多不用水者理中丸主之・・・腹中痛者加人參足前成四兩半 7 吐利止而身痛不休者當消息和解其外宜桂枝湯少和之	五苓散、理中丸 桂枝湯

表2. 傷寒論にみられる疼痛の種類と方剤

	用語	記載条文	方剤	
疼痛	身重而疼痛	痙16		
	一身盡疼痛	痙11		
	身上疼痛	痙7, 12		
	身疼痛	中8, 16, 20, 32, 58, 64、霍6	大青龍湯、麻黃湯、桂枝新加湯、理中丸	
	身體疼痛	中65、厥48	四逆湯、桂枝湯	
	骨節疼痛	中5	麻黃湯	
	關節疼痛	痙7		
	沈重疼痛	少陰36	真武湯	
	疼痛	一身盡疼	痙8	
		身疼	霍2	
身疼腰痛		中5	麻黃湯	
身體疼		平4		
身體疼煩		下47	桂枝附子湯	
疼重		弁24、痙15		
目疼		傷15		
骨節煩疼掣痛		弁28、下48	甘草附子湯	
骨節疼		明15		
四肢煩疼		太陰2		
支節煩疼	下19	柴胡桂枝湯		
心中疼熱	厥1			
陰疼	中61	禹餘糧丸、		
痛	痛	平1、平29、中70、下1, 7, 10, 11	大陷胸湯、小結胸湯、小柴胡湯	
	硬痛	下22	半夏瀉心湯	
	掣痛	下48	甘草附子湯	
	卒痛	平5		
	裏痛	平8		
	絞痛	平36		
	太實痛	太陰8	桂枝加大黃湯	
	一身盡痛	痙13		
	體痛	上3		
	身痛	霍7	桂枝湯	
身體痛	少陰25	附子湯		
骨節痛	少陰25	附子湯		
頭痛	弁43、傷17, 18、上9, 14、中5, 26, 65、下7, 13, 25、明20、少陽3、厥54、霍2,	桂枝湯、麻黃湯、承氣湯、四逆湯、大陷胸湯、十棗湯、吳茱萸湯、五苓散		
頭痛強痛	下15			
頭痛身疼	霍2			
頭卓然而痛	中85			
頭項強痛	上1、29	桂枝湯去桂加茯苓白朮湯		
頭項痛	傷15			
咽痛	下13、明21、少陰3, 30, 31, 37, 37,	猪膚湯、甘草湯、桔梗湯、通脈四逆湯		
咽中痛	平9、少陰33、厥9	半夏散及湯		
喉中痛	平9			
胸脇痛	傷15			
胸中痛	中100, 100,	調胃承氣湯		
脇下滿痛	中72	柴胡湯		
脅下痛	下25, 33	十棗湯		

痛	膈内拒痛	下7	大陷胸湯
	心痛	平8、明53	小柴胡湯、麻黄湯
	脇下及心痛	明53	小柴胡湯、麻黄湯
	心中結痛	中51	梔子鼓湯
	心下滿微痛	上29	桂枝湯去桂加茯苓白朮湯
	心下痛	下8	大陷胸湯
	臧府其痛	中70	小柴胡湯
	腹痛	少陰36, 37	真武湯、通脈四逆湯
	腹自痛	太陰1	
	腹滿痛	明62, 76	大承氣湯
	腹滿時痛	太陰7	桂枝加芍藥湯
	腹内痛	弁44	
	腹中痛	平17、中69、下14, 46、少陰37, 38、厥33、霍6	小柴胡湯、白散與芍藥、黄連湯、通脈四逆湯、四逆散、理中丸加人參
	腹中急痛	中74	小建中湯、小柴胡湯
	小腹滿按之痛	厥15	
	臍築秋痛	弁43	
	臍傍痛	下40	
	繞臍痛	明60	
	腰痛	弁43、平8、中5	麻黄湯
不痛	身不疼	中9	大青龍湯
	心下滿而不痛	下22	半夏瀉心湯
	不知痛處	中18	
	頭不痛	下39、明20	瓜亭散
	咽不痛	明21、	

表中、弁は弁脈法、平は平脈法、傷は傷寒例、痙は痙濕弱病、上は太陽病上、中は太陽病中、下は太陽病下、明は陽明病、少陽は少陽病、太陰は太陰病、少陰は少陰病、厥は厥陰敵病、霍は霍乱病を示す。

表3. 頭痛の病期とその方剤

病期		方剤	
太陽病・上	頭痛(9, 14)	桂枝湯	
	頭項強痛(29)	桂枝去桂加茯苓白朮湯	
	中	頭痛發熱(5)	麻黄湯
		頭痛(26)	承氣湯、桂枝湯
下	頭痛(65)	四逆湯	
	頭痛(7, 13, 15, 25)		
陽明病	頭痛(20)		
少陽病	頭痛(3)	小柴胡湯	
太陰病			
少陰病			
厥陰病	頭痛(54)	呉茱萸湯	